

デフィデ株式会社

AI インタビューマガジン「AI Future Talks」

第8回 公開のお知らせ

慶應義塾大学大学院 南澤 孝太 教授

— 触覚テクノロジーと身体拡張が切り拓く、人間とAIの「共創」の未来 —

AI/DX コンサルティング企業のデフィデ株式会社（東京都港区赤坂 2-4-6、代表取締役：山本 哲也）は、日本を代表する AI 研究者へのインタビューシリーズ「AI Future Talks」の第8回を公開しました。

今回の対談相手は、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（KMD）教授の南澤 孝太氏。身体性メディア・触覚テクノロジーの第一人者として、国家プロジェクト「ムーンショット型研究開発事業」のプロジェクトマネージャー（PM）を務め、ACM CHI Best Paper Award（2025年）を受賞した気鋭の研究者です。

■ 今回の対談 | 南澤 孝太 氏

第8回

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（KMD）教授
南澤 孝太 氏

対談テーマ | 「共創と越境により新たな時代をデザインする」

【経営者】 【AI/DX 推進責任者】 【AI 研究者・学生】

■ 南澤 孝太 氏とは

2005年に東京大学工学部を卒業、2010年に同大学院博士課程を修了（博士：情報理工学）。慶應義塾大学 KMD Embodied Media Project を主宰し、「身体性メディア（Embodied Media）」を研究テーマの中心に据える。人間が身体を通じて得る感覚——触覚・運動感覚・位置感覚——をデジタルテクノロジーで記録・共有・拡張・創造する技術の研究開発と社会実装を20年以上にわたり牽引してきた。

▶ 主な実績・受賞・役職

- ACM CHI Best Paper Award（2025年）— コンピュータと人間の相互作用分野における世界最高峰の国際賞
- 科学技術振興機構ムーンショット型研究開発事業・目標1「Project Cybernetic being」プロジェクトマネージャー（PM）
- NTTドコモとの「フィールテック」（FEEL TECH）プロジェクト推進（2023年～）
- 大阪・関西万博での触覚体験プロジェクト：花火の触覚再現・Bリーグ触覚ライブビューイングを実施
- 日本学術会議 若手アカデミー 幹事 / テレイドジスタンス株式会社 技術顧問
- 慶應義塾大学義塾賞（2022）、グッドデザイン賞（2012・2017）など各賞受賞

■ 対談で語られた 3 つの研究テーマ

01	<p>身体の DX—「触覚・運動感覚」をデジタルネットワークに乗せる</p> <p>目と耳はすでにオンライン会議でデジタル化されている。南澤氏が目指すのはその先——触れる皮膚感覚や体を動かす運動機能もデジタルネットワーク上で共有・拡張できる「身体の DX」だ。NTT ドコモとの「フィールテック」プロジェクトでは、離れていても触覚を通じて人の技や記憶を伝える次世代コミュニケーション技術を開発中。Bリーグのバスケットボール試合を「触覚付きで大阪・関西万博に生中継」した実証実験は、エンターテインメント・スポーツ・教育・医療の各領域への展開可能性を示した。</p>
02	<p>国家プロジェクト PM—「Project Cybernetic being」が描く 2050 年の人間</p> <p>現在活動の約 7 割を占めるのが、内閣府ムーンショット型研究開発事業のプロジェクトマネージャー業務だ。「身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発」をテーマに、複数のロボットやアバターを自在に操り、年齢・性別・身体能力の制約を超えて活動できる社会の実現を目指す。若手研究者として国家規模プロジェクトの PM を務めるという稀有な経験から語られる「プロジェクトデザイン論」と「産学官民の越境連携」の実践は、企業の DX 推進責任者やイノベーション担当者にとって直接的な示唆に富む。</p>
03	<p>共創と越境—研究・産業・社会の境界そのものを問い直す哲学</p> <p>「今まで不可能だったことを可能にする」ことの繰り返しが人類の進化であり、それを実現するのが研究者の責任だと南澤氏は言い切る。自閉症・対人恐怖症の支援へのアバター技術活用（横浜市立大学医学部との共同研究）など、エンターテインメントから医療・福祉まで分野を横断する実装は、技術の本質的な価値を「誰のために・何を実現するか」から逆算する設計思想の表れだ。ハプティックデザイン（触覚デザイン）の社会普及を通じて、技術と人間の幸福をどう結びつけるかを問い続ける。</p>

■ 読者別・この対談から得られる視点

読者層	得られる示唆
経営者	触覚×AI が生み出す次の事業機会——エンタメ・医療・製造・リモートワークへの応用をどう先読みするか
AI/DX 推進責任者	「身体の DX」という概念が自社のデジタル戦略にどう組み込めるか。国家プロジェクト推進の設計論から学ぶ越境型組織づくり
AI 研究者	触覚・身体性という「見えない感覚」をデータ化・モデル化するアプローチ。ACM CHI 受賞研究が示す次世代 HCI（ヒューマン・コンピュータ・インタラクション）の方向性
AI を学ぶ学生	「何を実現したいか」から逆算して技術を選ぶ研究スタンス。若手研究者として国家プロジェクト PM を務めるに至ったキャリアパスと産学連携の実践

■ AI Future Talks 掲載シリーズ一覧

回	研究者	対談テーマ
第 1 回	栗原 聡 氏（慶應義塾大学 教授 / 人工知能学会 会長）	チャレンジをしない日本は、AI の未来を切り開けるのか
第 2 回	伊庭 齊志 氏（東京大学大学院 教授）	AI を活用し、進化を計算する

第3回	長野 匡隼 氏 (京都大学大学院 助教)	人と共生するロボットの開発に挑む
第4回	石黒 浩 氏 (大阪大学 教授・名誉教授)	未来を創造しデザインするのが、人間の責務
第5回	市瀬 龍太郎 氏 (東京科学大学 教授)	AIの原理を知ることが基本
第6回	宇田川 敦史 氏 (武蔵大学 准教授)	AIを疑う力が、人間の価値を再定義する
第7回	小町 守 氏 (一橋大学 教授)	AIは道具。いかに使うかは人間に責任がある
第8回	南澤 孝太 氏 (慶應義塾大学 教授)	共創と越境により新たな時代をデザインする ★今回
第9回 ～	大澤 正彦 氏 ほか 続々公開中	(シリーズ継続中)

掲載 URL : <https://www.defide-ix.com/ai/ai-future-talks>

■ 会社概要

社名：デフィデ株式会社 (DEFiDE inc.)

所在地：東京都港区赤坂 2-4-6

代表取締役：山本 哲也

事業内容：戦略 AI コンサルティング／生成 AI 基盤構築支援／業務改革 AI プラットフォーム (SmartOps) ／ RAG 型 AI チャットボット・特許取得 (chai+) ／HR Tech (JOB Scope・生成 AI ワークバリュー・スコア分析・HR キャピタルダッシュボード)

コーポレートサイト：<https://www.defide-ix.com/>

AI Future Talks：<https://www.defide-ix.com/ai/ai-future-talks>

chai+：<https://lp.chatbothub.ai/>

Recotto：<https://lp.recotto.ai/>

SmartOps：<https://smartops.jp/>

JOB Scope：<https://jobscope.ai/>

生成 AI ワークバリュー・スコア分析：<https://jobscope.ai/ai-survey/>

HR キャピタルダッシュボード (JOBSCOPE ISO30414)：<https://jobscope.ai/hrcapital/>

JOB Scope マガジン：<https://marketing.jobscope.ai/media/>

【本件に関するお問い合わせ先】

デフィデ株式会社 広報担当

Email : SalesRep@defide-ix.com | URL : <https://www.defide-ix.com/>